

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372300901		
法人名	社会福祉法人 樹の里		
事業所名	グループホーム 樹の里		
所在地	愛知県瀬戸市紺屋田93-106		
自己評価作成日	平成24年12月25日	評価結果市町村受理日	平成25年 3月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JiyosvoCd=2372300901-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成25年 2月 7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれた緑豊かな日当たりの良い環境に建ち、特別養護老人ホーム、デイサービスを併設し、地域密着型小規模特養やサービス付高齢者住宅を近隣に整えた複合施設です。複合施設の利点を生かし行事やレクを行い広く交流を図っております。他部署との連携や協力で緊急時の対応や定期的な研修で職員のスキルアップ及びケアの向上に繋げており、入居者様並びにご家族様から安心感や信頼感を得られております。また、入居者様のご希望で地域の講座や催しにも参加することで、地域との繋がりを大切にし、入居者様をご家族様、職員、地域で共に支えあう家庭的なホームです。日々季節感を味わって頂ける様食事や行事、レクを工夫し、身体状況にかかわらず一人ひとりの意思を尊重し、すべての入居者様が楽しく活き活きとした時間を過ごして頂けるよう努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

特別養護老人ホーム、デイサービスを併設した複合施設内にあり、運営面や利用者サービスについて連携を密に図り、複合施設の利点を最大限に活かしてサービスの向上、地域貢献に取り組んでいる。特に地域活動は、ホームの意義である「利用者が地域の中でその人らしく暮らし続けること」を実践し、地域に主体的に働きかけ、参加していくことにより併設する他の施設と共に進化している。隣接する幼稚園に働き掛け、運動会には利用者が出掛け、園児が訪問して合唱のプレゼントをするなど、微笑ましい交流を持っている。法人の主催する夏祭りでは、準備の段階から地域や家族の自発的な協力があり、地域の祭りとして利用者と共に楽しく交流する機会としている。今後も、地域や家族と融和した利用者本位の心温まる支援に期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「誠実・努力・感謝」の理念に基づき、年度替わりに職員全員で話し合い一年のモットーを掲げています。月1回行うGH会議では理念に基づいた具体的ケアについて話し合い意見の統一を図っています。。	理念は玄関に掲示し、職員のみならず家族にも公開し、共に協力して利用者を支える関係を築いている。また、理念を踏まえて職員個々に1年の目標を設定し、管理者と話し合いながら実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	幼稚園の行事、学校の資源回収、地域の行事等に積極的に参加しています。地域の馴染みの喫茶店やスーパーに出かけ地域との繋がりを大切にしております。	隣接する幼稚園と、1年を通じ互いに交流する関係にある。地域の中学校の職場体験を受け入れ、大学エコサークルへの資源提供では、学生からお礼のボランティアの訪問を受け、利用者や地域との良好な関係を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	制作した作品を郵便局に展示して頂くことで地域に向けて、ホームを紹介し、理解を深めて頂ける様努めております。また、実習生を受け入れることで認知症の理解や興味を深めて頂ける様に努めております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方やご家族様に参加して頂き事業所からの報告とともに意見や要望を受け、頂いた意見はGH会議等にて話し合い職員全員が周知できるようにして、日々のケアに生かしております。	地域、行政、多くの利用者、家族の参加を得て、賑やかな運営推進会議を開催している。会議はホームの事業計画や外部評価の結果も公表し、行事と同時開催とするなどの工夫を凝らし、活発な意見交換を行ってホーム運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に委員として参加して頂き、常に報告、連絡、相談等で双方向的な関係作りに努めています。行事等のお知らせをし、楽しんで参加して頂いております。	報告や相談のために行政を訪問し、運営推進会議の参加を得て互いに交流している。市の要請を受け、地域密着型施設の連絡会のメンバーに加わり、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束廃止に関する指針」に基づき、定期的に研修に参加し、入居者様一人一人のその日の状況や気分に合わせ、安全に配慮した自由な生活の支援に努めております。	定期的に研修を実施し、職員は拘束しない介護について共通認識を持てるよう努めている。法人内に身体拘束廃止委員会を設け、入居者の尊厳と主体性を尊重し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に身体拘束と関連づけて研修を行い全職員が学ぶことにより、高齢者虐待防止関連法の理解を深め、不適切なケアについて話し合い周知徹底に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に「成年後見人制度」や「日常生活自立支援事業」について勉強会を行うことで職員全員が理解を深めています。ご家族からの活用についての相談に対応しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な時間を用い丁寧に説明しています。常に質問しやすい雰囲気にも努め、金銭面については特に解り易く説明し、同意を得ております。また、起こりうるリスクや退居を含めた事業所の対応についても説明しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に入居者様やご家族様に参加して頂き意見や要望を伺い日々の運営に生かしております。また、手紙を用いて、行事参加や日常の訪問時に入居者様の様子を伝え、気軽に意見要望を話しやすい雰囲気作りにも努めております。	家族の訪問は頻回にあり、運営推進会議、家族会やその他の行事にも、当日の準備段階から積極的に参加している。利用者のホームでの充実した暮らしには、家族の関わりが不可欠とし、家族との関係を大切にし、意見の言える関係を築いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に職員の思いや提案を聞き、前向きに捉え、運営に反映させております。常にチームワークを大切にし、コミュニケーションを活発に図り話しやすい関係作りにも努めております。年2回個別面談を行い意見要望の抽出に努めております。	管理者を中心に職員は互いに信頼し、協力する関係を築いており、日常的に建設的な意見を表している。毎月開催の職員会議や、管理者による年2回の個人面談を通し、職員の意見がホーム運営に反映されるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度の導入や資格取得に向けた表彰制度により職員が意欲や向上心が持てる様支援しております。安全衛生委員会を設置し、環境条件の設備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外で行われる研修になるべく多くの職員が参加できるようにしております。また、研修内容を報告し、全職員が知識向上を図れるよう努めております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所への行事参加の呼びかけや見学等で親睦を図り、年1回定期的に行う瀬戸市内のグループホーム交流会で意見交換し、サービスの質の向上を図り悩み等の共有で解決に繋げております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で必ずご本人にお会いし、生活状況や思いなどできるだけ多くの情報を収集し、全職員が情報を共有することでご本人の理解を深め、ご本人自らの希望で安心して入居して頂ける様努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の困ってみえることや不安なこと、要望などゆっくりと話しやすい雰囲気の中で伺い、ホームでの様子を電話での報告や訪問時にケース記録のコピーをお渡しすることで信頼関係に繋げていけるよう努めております		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	困っていることや不安なことに対して可能な限り柔軟な対応を行い、場合によっては他事業所と連携を図り適切な対応ができる様努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の強みや昔取った杵柄を大切にし、職員と入居者様が互いに支えあい協働し生活できる様努めています。日々経験豊富な入居者様から暮らしの知恵や工夫を教わり感謝の気持ちを表すことで良い関係性を保てる様努めております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の日々の様子を電話、手紙や面会時に報告、相談することや、ご家族様の思いにできるだけ寄り添えるように努めております。また、行事や会議等案内し、楽しんで参加して頂き、入居者様と共に支えあう関係性を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様との定期的な自宅への外出や、地域にみえる馴染みの知人や友人の訪問、ボランティアなどで継続的な交流ができる様働きかけています。	自宅周辺の友人、フォークダンスサークルの友人の訪問、そして法人建物内の他事業所の利用者にも多く知人がおり、交流は盛んである。好きな歌手のコンサートに職員と出掛け、利用者の感動の再会を実現している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の様子から入居者様同士の関係性を把握して、お互いに支え合える関りを持って頂けるよう支援しています。全職員が情報共有しており、気の合う入居者様同士交流の場を作るなど円滑に関わり支えあえる環境作りにも努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用契約が終了しても、なじみの入居者様と共に散歩を利用して会いに行き会話を楽しみ、職員間の支援状況等の情報交換を常に行う事でケアの工夫等の継続的なフォローをしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントやケース記録にセンター方式の用紙を用いてその人らしい生活スタイルを知り、日々の関りの中で言葉や表情などから思いを汲み取り、ご家族様や関係者からも情報を得る様に努めています。	職員はアセスメントの更新やサービス担当者会議に関わり、思いや意向の把握の意義を理解している。センター方式「24時間生活変化シート」に、利用者、家族の会話から把握した内容を記して職員に共有しており、記録の精度は高い。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様や関係者に生活歴の大切さをお話し、過去の具体的な情報収集を常に行う事で全体像をより明確に捉える様努めています。また、持参頂いた写真や持ち物を介しての会話の中でも情報を得、職員全員が共有出来る様努めています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人一人の生活リズムを把握理解に努めできることや強みを知り、達成感を感じて頂けるよう支援し、声掛けに努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様には日々の生活の中から、ご家族様には面会時に思いや意見を伺い、アセスメント、モニタリング、カンファレンスを定期的に行っています。入居者様の状況変化に伴いその都度計画を見直し適切な支援ができるよう努めています。	定期的にあセスメントの更新、モニタリング、カンファレンスを実施し、介護計画を作成している。計画作成には職員も関わり、利用者、家族の思いや意向を実践に反映するよう取組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録にセンター方式を用いて、日々の言葉や出来事を記載し、連絡ノートと共に業務に入る前に確認することで情報共有し、ケアに活用するよう努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様やご家族様の状況やその時々生まれるニーズに応じて通院や外出、外食、喫茶、市民講座参加など柔軟な対応を行い、個々の満足度を高めるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の学校の資源回収やボランティア、老人会の行事協力などで交流を図っています。運営推進会議の委員として民生委員など地域の方々に参加していただき意見や情報交換を行い協力関係を築いています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様やご家族様の希望される医療機関に受診や、定期的(2回/月)に協力医療機関の往診を受けられます。また歯科や外科、眼科の訪問診療も受けられ医療機関と連携を図り健康の維持管理に努めています。	協力医は月2回往診している。希望のかかりつけ医の受診は家族と協力し支援している。半年に1回の血液検査、年1回の胸部写真などの健康診断を実施し、入居者の健康の維持管理に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制を整え定期的に月4回以上、また体調不良時、施設内の看護師の訪問を受け異常の早期発見や健康維持管理に努めています。異常を感じたら直ちに報告対応し、安心安全に生活出来る様協力支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族様と協力しながら、安心して治療が受けられ、入院による環境変化の影響が少なくなる様に、医療機関と連携を図り情報を共有して、速やかな退院支援に向け働き掛けています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時ご家族様やご本人に重度化された場合や終末期のあり方のご希望を尋ね、医療連携体制を整える事で日々不安無く過ごされ生活の延長での死を迎えられるように随時意思確認しながら支援しています。	毎年、職員は法人内の研修を受講し、医療連携の体制を整えて看取りに対応するスキルを有している。現在、同法人内に重度化に対応する別施設もあり、医師、看護師の意見を確認のうえ、利用者、家族と話し合いを重ねて適切に支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを全職員が把握し、定期的に施設内で緊急対応研修や外部(消防署)からの協力を得て救命講習を行い実践力を身につけています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定も含め年4回の避難訓練で、災害時入居者様が安全に避難できるよう訓練を行っています。地域と法人全体の協力体制を整え、大災害時避難場所として備蓄の管理や建物の安全確保に努めています。	消防署の指導を含み、年4回の避難訓練を実施している。緊急対応マニュアルを整備し、夜間想定訓練、避難経路の確認、救急救命講習にも着手している。災害時には法人の建物を市の指定避難所としており、市と連携し地域に貢献している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の入居者様の思いを大切に、馴染みの言葉を取り入れる等自己決定しやすい声掛けに工夫してケアを行っています。定期的に人権の研修を受けることで常に守るべき情報は決して漏らさない等人権意識を徹底しています	職員は接遇やプライバシーについて法人内の研修を受講し、利用者に対応している。利用者の呼称は利用者、家族の希望に沿って行ない、地域出身の利用者には地元の方言で会話をし、利用者の気持ちに沿うよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様一人一人に合わせた声掛けに心掛け、おやつやレクの選択等ご自分で選んで頂ける様な働きかけを行っています。職員が入居者様の興味や嗜好、関心を把握し選択し易い場面作りをしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本となる一日の流れはあるが一人一人の体調やペースに合わせて出来るだけご本人の希望に添える様努めています。入浴のお嫌いな入居者様も無理強いすることなく入って頂ける様タイミングや順番を工夫しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご希望される方は訪問美容を利用され散髪や、毛染めを行っています。衣類の着替えは基本的にご本人に選んで頂いています。定期的に手足の爪のチェックを行い爪切りや耳掃除を行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの畑で採れた作物を食卓に並べ季節感を味わって頂き、食事への関心や楽しみを持って頂く工夫をしています。バイキングと一緒に手作りおやつを作りご家族と共に楽しんで頂く機会も設けています。	手作りの温かい食事の時間は、職員と利用者が会話を楽しみ、笑顔の絶えない時でもある。入居時は食の細かい利用者も、食事の楽しい雰囲気や嗜好の考慮により、全ての利用者が完食する成果を上げている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は毎食チェックし、飲み物を工夫し水分摂取回数を多くして積極的に飲んで頂いております。月1回(著しい変化があれば必要時)体重測定を行い看護師に報告し、体調管理に努めております。いつでも自由にお茶が飲める様準備しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者様の状態に合わせて、毎食後居室の洗面所にて、介助を行っております。義歯使用者には、毎晩洗浄剤を用いて清潔の保持を行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自尊心に配慮しトイレで排泄出来る様支援しています。一人一人の排泄パターンを把握し体調や気分を考慮し、声掛け誘導を行っております。汚染時はプライバシーに配慮し、速やかに対処しております。	さり気ない声かけにより、他の利用者に分からないように羞恥心に配慮したトイレ誘導をしている。誘導は排泄パターンを把握したうえで、夜間の誘導を含み利用者の快適で自立した排泄となるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝夕に一日2回体操を行い体を動かし、積極的に水分補給を行っています。食材に繊維の多いものを時間を掛けて柔らかく煮て食べ易く提供しています。水分補給やおやつに牛乳やヨーグルトで便秘対策を図っております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1人1人のその日の気分や希望、体調に合わせて声掛けの仕方やタイミングを工夫し、福祉用具を活用して安全安楽に入浴して頂ける様努めております。季節感を味わって頂けるよう菖蒲風呂や柚風呂、雪見風呂等工夫して楽しんで頂いております。	隔日の入浴を基本とし、希望や体調の変化により柔軟に対応している。時には併設のデイサービスセンターの大浴場を利用し、温泉気分を楽しんだり、柚湯や菖蒲湯を取入れ、季節を楽しむ入浴を実践している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間はレクや趣味活動、散歩等を促し生活リズムを整えるように努めています。体調や希望を配慮して休息の声掛けをしています。定期的にシーツを洗濯し天日干しや布団乾燥機にて快適な寝具を保てるよう努めております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬使用者の内服薬外用薬の説明書はすぐに確認出来る様ファイルしてあります。変更があった場合は、連絡帳にて薬剤師からの注意事項等記載し全職員が周知し状態観察に努めております。服薬介助は確実に内服の確認をしております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の経験や知恵を生かし、状態に合わせて張り合いや喜びが持てる様役割に配慮し、希望されるレクや行事を共に計画し、個性を考え楽しんで頂ける様努めております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	1人1人の体調や気分に合わせて積極的に外出の機会を設けております。長距離の歩行が難しい方には車椅子を使用して安全に無理の無い様支援しております。地域の講座なども主催者様の協力を得て参加しております。	日常的に利用者のその日の希望を聞き、地域の商店街に出掛けたり、喫茶店に立ち寄るなど、普段着感覚の外出を支援している。イチゴ狩り、しいたけ狩り、歌舞伎鑑賞等の外出は、利用者の意向に沿い喜びの時となるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族や入居者様の希望によりおこずかいを預かり事務所が管理しています。外出時や買い物の際個別性を考えた不安の無い方法で支払いが出来る様支援の工夫をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には電話しやすく人目を気にせず会話が出来る環境を整え、会話が他に聞こえないよう配慮をしています。面会が難しいご家族様には定期的に手紙で様子をお知らせする際に入居者様直筆の手紙を同封しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有のリビングは入居者様が製作された貼り絵や作品等を飾り、金魚の水槽があり、行事、外出時の写真を貼る事で入居者様同士の会話も生まれ明るい居心地の良い環境を作るよう工夫しております。	掃除は毎朝の利用者の役割となっており、ホーム内は清潔に保たれている。広い居間は利用者が楽しく過ごせるよう、利用者の相性を考慮したテーブル配置となっている。置かれた水槽には金魚が泳ぎ、利用者の生活のスナップ写真を掲示した穏やかな空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う入居者様同士や1人で過ごしたい方がそれぞれくつろげる席の配置を工夫しております。その日やそのときの状態に合わせ早めにトラブル回避出来る様な支援をしております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様やご本人と相談し、使い慣れた家具や家電、仏壇等を持参して頂きその人らしい居心地の良い環境を整えております。ご自分の居室が判らない入居者様が不安の無い様表札にご本人の写真や張り紙をしております。	利用者、家族の希望する家具、趣味の書画、化粧品、そして仏壇等が持ち込まれている。畳部屋に布団、洋室にはベッドを持ち込み、利用者の生活習慣を尊重した居心地の良い部屋となるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様それぞれの身体状況(聴覚、視覚、歩行)に合わせ、家具や家電、席に位置を工夫し、残存機能を生かせる環境作り心掛けています。ヒヤリと感じたことは会議にて話し合い安全の確保に努めております。		

(別紙4(2))

事業所名 グループホーム 樹の里

目標達成計画

作成日: 平成 25 年 3 月 15 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	28	以前から個別性を考えたケアを常に考えているが、今まで以上に広く深くニーズを捉え可能な限り入居者のニーズをご家族様と共に職員が適えられるよう努める	一年以内に各入居者様担当職員が入居者様との対話の中に隠れているニーズを導き出しニーズ達成に努める。	一年以内に各入居者様担当職員が入居者様との対話の中に隠れているニーズを導き出し、ご家族様や身元引受人様と相談しつつ、ニーズに対応します。	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。